



多文化共生モデル構想

ねえちょっと聞いてプロジェクト

オホーツク北見の産業と暮らしを守り

地域と外国籍住民が共に安心して暮らせる地域共生プラットフォーム

日本語学習と生活支援事業『あめつち』 代表 上杉

課題構造と「北見モデル」の目指す姿

▲ 現場が抱えるミスマッチ

- **企業側の悩み**：住宅手配や生活支援、学習管理まで手が回らず、突然の離職や失踪に不安を抱えている。
- **就労者側の悩み**：厳しい冬期の移動手段がなく、地域社会との接点が乏しいため孤独感を感じやすい。
- **地域の危機**：農業・漁業・介護など、地域のインフラや税収を支える外国籍人材の定着率低下。

🔑 あめつちの解決アプローチ

- **管理人常駐型寮**：心身のケアと社外相談窓口として、離職・失踪を未然に防止。
- **移動&学習の一括支援**：冬期送迎とシフトに合わせた個別の国家試験・日本語学習を提供。
- **2027年新制度への対応**：「育てて長く住んでもらう」国の新方針に先駆け、持続可能な定住環境を構築。

3つの柱



1. 常駐サポート

常駐管理人が日々の体調やメンタルに寄り添い、生活マナー指導や突発的な困りごとを解決。社外の人だからこそ気軽に「ねえちょっと聞いて」と話せる安心の相談環境を作ります。



2. 冬期送迎 & 学習

積雪期の通勤や買い物の足を確実に確保。さらに、不規則な交替制シフトに合わせたリアルタイム進捗可視化付きの日本語学習プログラムを提供します。



3. 地域交流拠点

寮の共有スペースを地域に開放。「国際交流カフェ」や「外国食の地域食堂」を開催し、地域住民との開かれた「プチ留学」の機会を創出し、「ねえちょっと聞いて」が出やすい環境を提供します。

地域がつながる「あめつちの家」

- ✓ **身近なプチ留学の場**：日本語学習や書き初め体験、郷土料理・世界の料理教室などを通じて、自然な多文化交流が生まれます。
- ✓ **「安全」と「安心」の先にある定住**：女性が夜一人で出歩ける日本の『安全』に、常駐支援と地域の絆による心の繋がりで『安心』をプラス。
- ✓ **スモールスタートからの挑戦**：少人数のモデルケースから始まり、物件・車両・運用の協力パートナーと共に北海道全体の課題解決へ展開。

人種を問わない「隣人」として共に生きる。北見・オホーツクから明るい北海道の未来を一緒に作りましょう！

